

---

# 櫻の樹の下で.....。

零・ZA・音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

櫻の樹の下で……。

### 【Nコード】

N4789A

### 【作者名】

零・ZA・音

### 【あらすじ】

桜の樹 それは、あの大好きだった樹。だから、ここで終わりにしようと思う。今から会いに行きます。

何もない世界。

音も光もない、見るものを黒く染めるだけの漆黒世界。  
だが　その世界の中で、そこだけは異彩を放つ。

闇に浮かぶ満開の桜……。

聞こえる……声が聞こえる。囁くような声、音のない世界では異様な声。

その声は、次第にはつきりと響く。

いろはに……ほえど、ちりぬるを……。

声は響く、頭に響いてくる。防ぎ<sup>ふせ</sup>ようのない音として　。

「貴方は、どうしてここに？」

声は直接、頭の中に響く。耳を塞いでも駄目だった。

「ここは　冥府の入り口」

淡々と喋る声は頭に響く。感情もない声。

「貴方は、死んだのですか？」

ただの質問。でも、それで理解した。

……俺は死んだ。

流れ出した記憶の欠片が、俺の中で繋がっていく。  
そこで何が起きたのか。何が遇ったのか。

わがよ、たれそ……つねならむ……。

俺は、あの場所でこの世界に絶望した。  
失った悲しみが身体を蝕み、心を腐食していった……。  
大切だったあの人　愛したあの人が、俺の前からいなくなったから。

眠るように息を引きとったあの人。だから俺は、あの人の好きだったあの場所で　。

うゐの……おくやま、けふこえて……。

俺は死んだ。

あの場所で、あの人に遇いたくて。  
だから、ここににいるのか……。

ここは冥府　死者の世界。だが、何もない。  
目の前にある桜の樹以外は……。

「ここは、冥府の入り口」

声は再度、響く。音となり、頭に響く。

「貴方は、死んだのですか？」

また、聞こえる。俺は死んだ……桜の樹の下で。  
あの人のそばにいたくて　。

「……貴方は望みますか？」

何を望むのだ？

俺はただ、あの人のそばにいたい……それだけだ。

「今なら、戻れます」

戻る……？　どこに？　俺は戻るところなんてない。

「あの……桜の樹が、呼んでいます」

呼んでいる？　桜の樹が……？　分からない。何故、呼ぶんだ？

あさき、ゆめみし……ゑひもせず。

音が鳴る。遠くから音が鳴る。

懐かしいあの人の音色。

「貴方と呼んでいます……」

あの人が呼んでいる　桜の樹の下で。

「……戻りますか？」

俺を呼ぶ懐かしい音。あの人が持っていた鈴の音色。

あの人は望んでいない　俺がここに来るのを……。

だから呼ぶんだ。

「まだ　間に合います」

俺を呼ぶ音は、次第に小さくなる。

あの人は、悲しんでいる。俺が”ここ”に来た事を……。

悲しませている。俺はあの人を悲しませたくない。

だから

「……戻る」

俺の声は音となり、世界に響く。

「わかりました」

頭に響く声は、優しく俺の心に響いた。

音が動く。加速して動く。前から後ろへ、上から下へ。

何もない世界が突然割れる。ヒビ割れた世界は砕け、光が一面に溢れる。

光の中　懐かしい音と声が聞こえた気がした。

目の前には　桜の樹。ひらり、と舞う桜の花弁が俺の手に落ちてくる。

見上げると、そこには満開の桜が、あの時と変わらない姿で静かにそこにあつた。

桜の花弁が舞う。ひらり、ひらり、と舞い落ちながら綺麗な音がする。

懐かしいあの音色を俺の耳に届けながら

『生きて、ください……』

それは光の中で聞いたあの人の声。

頬を伝い落ちる涙は、俺の涙が、それともあの人が流した涙か……。

ひらり、ひらり、と花弁は静かに舞い落ちながら、そっと俺を包み込む。

『愛して……います』

優しい温もり、あの人の温もり。また、涙が溢れてくる。

「……俺も愛しています」

あの人がくれた最後の贈り物。

それは、変わらない愛。

変わる事のない愛の温もり……。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4789a/>

---

櫻の樹の下で.....。

2010年11月26日06時21分発行